

会報  
藤井寺市観光ボランティアの会

〒583-8583 藤井寺市岡1-1-1 (藤井寺市役所 藤井寺市観光協会内)  
TEL: 072-939-1096 FAX: 072-936-9777 藤井寺 観光 ボランティア 検 索



第 22 号 2019 年 1 月

《 百舌鳥・古市古墳群の世界文化遺産登録に向けて 》 会長 鈴木繁實

明けましておめでとうございます。

いつも当会にご支援、ご参加いただきありがとうございます。本年もよろしくお願い申し上げます。

さて、百舌鳥・古市古墳群は平成 22 年世界文化遺産暫定リストに記載され、平成 29 年に国内推薦を経て、昨年イコモスの査察を受けました。今年、念願の世界文化遺産への登録が実現する可能性があります。

もし登録された場合、どれほど多くのお客様が来られるのでしょうか？

平成 27 年に登録された富岡製糸場と絹産業遺跡群の場合、登録年の観光客数は、前年の約 30 万人から 4 倍を超える約 130 万人に増えたそうです。都市部に近くて、普段観光客の多くない史跡に一気に来訪客が押し寄せる傾向は、百舌鳥・古市古墳群にも当てはまる可能性があります。

現在、当会のウォークに参加されるお客様の多くは、古墳群に立ち寄られるケースが増えてきています。寺社を訪れるグループも含めて、90%近い方が“登れる古墳古室山”を訪れています。

大切な歴史遺産を多くの方々に知っていただくことは、大変意義深いものと考えております。当会では急増するお客様をお迎えし、ご案内するための方策を検討中です。外国からの来訪者、ハンディキャップのある方々にもお手伝いさせていただくように配慮したいと思っています。

なお登録までの間、ゆっくりとご案内させていただくことができますと思います。

本年 3 月 2 日(土)のふじいでら春季ウォークにご参加いただくか、お申し込みガイドをご利用ください。

《 世界文化遺産登録をめざす平成 31 年度の取組み 》

2019 年の世界文化遺産登録をめざす百舌鳥・古市古墳群に対するイコモスの現地調査が 9 月 11 日～17 日に行われ、今後は、今回の現地調査を踏まえたイコモスの審査の行方に注目が集まります。

順調にいくと、今年 4 月～5 月に出されるイコモスの評価結果及び世界文化遺産委員会への勧告、これを受けての 6 月～7 月の審議の結果を待つことになります。

文化遺産登録が決まると、国内外の劇的なお客様の増加に備える必要があります。ガイドや申込みの方法については様々な工夫と試行、そして実践が必要になりそうです。例えば、ガイドの質と量の強化を図ることはもちろんですが、誘導や定点ガイド方式の組合せによるガイドの効率化、英語をはじめとする外国語対応、障がいのある方々への対応、百舌鳥古墳群地区との連携、旅行会社からのオファーへの対応などです。

また、藤井寺市をはじめとする関係自治体、近畿日本鉄道(株)様などの企業や他の観光ボランティア団体と連携を図り、様々なイベントに協力する場面もありそうです。

さらに、我々独自の記念事業や記念品、記念刊行物なども考えられます。これらにつきましては、現在世界遺産登録対応検討チームで素案を検討中です。皆様のアイデアをいただきながら実行に移していくことになります。

(岡田)



アイセルシュラホールの修復(H30年10月)

## 《 秋季ウォーク 》 応神天皇陵古墳一周&ゆかりの寺社へ 10月20日(土)

朝方はあいにくの雨模様でしたが、その後天候も回復に向かいウォーク日和になりました。今回は初めて半日コースを実施しました。受付が少し早まり、8時15分ごろから参加者が集まって来られました。お客様の総数は100人以上になりました。

お昼までの約3時間のウォークですが、内容は充実しており、古市古墳群第一の巨大古墳・応神天皇陵古墳一周がハイライトです。道明寺天満宮をスタートし、道明寺、三ツ塚古墳、応神天皇陵古墳の拝所をご案内し、ピンクや白のコスモス満開の西側外堤を歩いて誉田八幡宮に到着しました。家族揃ってのお宮参りや七五三参りの晴れ姿がほほえましく印象的でした。

そして、二ツ塚古墳や東馬塚古墳を巡り、応神天皇陵古墳拝所前で一周を達成しました。大鳥塚古墳・赤面山古墳を通り、台風21号の爪痕の痛々しい古室山古墳の頂上からの眺望も楽しんで頂いて、仲姫命陵古墳を経て土師ノ里駅で解散しました。

近隣から来られた参加者も「近くに住んでいるのに知らないことがたくさんありました」と喜んで下さいました。ご参加頂いた方々、ご協力して下さいました皆様に心より感謝申し上げます。(中澤)



## 《 大阪市内に残る古墳を訪ねて 》 現地研修会 11月21日(水)

大阪阿部野橋駅からのスタートでした。阿倍野周辺には、松虫、北畠、阿倍野など、昔からの気になる地名が沢山あります。またこのあたりは大阪市内でも上町台地の上であり、多数の古墳が存在した珍しい地域になります。また、阿倍野でややこしいのは、阿部、阿倍、安倍の漢字の使い分けです。

最初に訪れたのは「阿倍廃寺」。名前の通り阿倍野の地名の由来になった阿倍氏の氏寺と言われる、四天王寺式伽藍を有する立派な寺だったそうです。次は阿倍野斎場の広い墓地にある、朝ドラのディーンさまで有名になった五代友厚の墓、鳥居まで備えた立派な墓でした。

その後、上町断層をたどって「聖天山古墳」と大聖歓喜天を祀る「正園寺」を見学しました。「松虫塚」を経て、有名な「安倍清明神社」「阿倍王子神社」へ行きました。

クライマックスは「帝塚山古墳」。普段は鍵が掛かっている入れないそうですが、事前の手配で墳丘に登ることが出来ました。全景が見渡せる前方後円墳で津堂城山古墳と同じ4世紀末築造の古い古墳ということに親しみがもてました。快晴に恵まれ快適な半日ウォークでした。(林良)



帝塚山古墳に登る

## 《 ガイド部活動報告 》

間もなくの世界文化遺産登録に向けてお客様の動向も気になるところです。

そこで当部では、ガイド資料の標準化を図り、新人からベテランまでが同質のご説明ができるよう「標準ガイドツール」を作成し3月に配布しました。

これからのガイドにはこの資料等で一定水準のレベルを保ち、また各ガイドの工夫も併せてお客様により解り易いガイドを提供したいと考えております。

また、最近はお客さまも我々ガイドも高齢化し古墳巡りの1日コースでは歩くキョリと時間が長いとのご意見が多くありました。そこで新たに半日コースを3つ設けました。①土師ノ里駅を出発し応神天皇陵古墳を中心にめぐるコース、②土師ノ里駅を出発し古墳銀座と言われる古墳を巡って藤井寺駅までのコース、③道明寺駅をスタートし応神天皇陵古墳から白鳥陵古墳を通り古市駅までのコースです。それぞれ約3時間程度の行程になっています。詳しくは当会のホームページ、モデルコースをご覧ください。皆様の多数のお越しをお待ちしています。(坂谷)

## 《 英語ガイド研究会の取り組み 》

ほぼ一年半のあいだ月 1 度のペースで英語ガイド研究会を開催してきました。内容は外国人の方へのガイド時の課題や問題点の洗い出しとその対応策の検討です。そして、毎回、各自が自作した短い英語ガイド案の音読練習も欠かさず行うようにしています。

さらに月例の会や、それ以外でも実地に外国の方を講師にお招きして、英語ガイド・トレーニングを実施するなど、より実践的な練習へと歩みを進めつつあります。なんとか簡単な英語で道案内し、古墳の概容の説明程度はできるのでは… という感じです。

世界文化遺産登録後、増加が見込まれる外国人観光客対応は難しい課題です。しかしながら、言葉の違いにとどまらず、文化の違い、歴史認識の違い等々をのりこえ「古市古墳群の魅力を伝える！」 ここには単なる通訳者にはできない当会独自の「やりがい！」があります。そして、それを達成するには当会会員全員の理解と協力が必要です。

例えば古墳時代を知らない外国人に1600年にわたる時間の流れをどうやって実感してもらうのか？ などという課題には英語の能力ではなくてガイド内容の発想を転換することや豊かな表現力が必要になります。さらに、その他もろもろの課題克服も含め多くの方々の知恵を総動員していただく必要があります。ぜひ世界に開かれた世界文化遺産にしていこうではありませんか！ (森康)

### ～会員のひとこと～

あちこちへの旅行中、見知らぬ方からのお声かけや親切は、楽しい良い思い出になります。海外からの方にも、当地で楽しく過ごして頂けたらと、おもてなしの心で、とても拙い語学力にも拘わらず、参加させていただいております。(Tさん)

外国人ゲストさんの想定外の質問に、まずは日本文化を学ぶことが大切だと思うようになりました。(Nさん)

外国の方と会うことも話すこともなかったので、会って話す機会が増えて楽しいです。(Hさん)

## 《 文化遺産と当会の取組み 》

当会発足当時から、春季・秋季ウォークを開催して参りました。お客様に気持ちよく楽しんでいただくために、下見のとき会員がゴミ袋を持って、犬の糞やタバコの吸い殻、空き缶などを拾いながら歩いていました。今は住民の皆様の意識も高く町はきれいになっています。

また、藤井寺市と羽曳野市が毎年共催されるクリーン&ウォークでは、普段立入ることが出来ない文化遺産の濠や堤、また墳丘に登っての清掃に参加させていただいています。

古墳修復のお手伝いでは、平成 21 年 3 月に古室山古墳の登坂道の整備と、平成 26 年 3 月に赤面山古墳の雨漏りによる箇所を修復することになり、市教育委員会の方々と当会のメンバーが土嚢運びなどで一緒に汗をながしました。(広報部)



古室山古墳の修復 (H21年 3月)

### \* これからの当会の催しのお知らせ \* どうぞお越しください

- ◎梅まつり: 道明寺天満宮境内 2月9日(土)～3月13日(水) ○奉納俳句締め切り 2月22日(金)
- ◎春季ウォーク: 3月2日(土) ◎藤まつり: 葛井寺境内 4月19日(金)～4月30日(火)
- ◎歴史講座: 5月中旬から6月の予定 詳細は広報ふじいでら4月号をご覧ください。尚、当会ホームページでは随時古墳群のウォークの申込みを受付けています。

大井という村は環濠集落だという説を聞いたことがあります。

現に大井の旧村地区（現在の2丁目、3丁目、5丁目の一部）は環濠に囲まれています（現在の1丁目、4丁目は田んぼや畑でしたから）。そして、今でも大井地区の環濠（今は暗渠になってますが）の内側は旧村時代の街区割りで町会を構成しています。北から時計

回りに北町、中町、東町、東中町、巽町、南町と呼ばれ、それぞれの町ごとに独自の地蔵尊を祀ります。ちなみに私は南町のお地蔵さんの西側の家で生まれ、高校卒業時まで住んでいました。

しかし、大井は環濠集落と言っても堺や平野のような深い濠を巡らした要塞都市型というものではなく、村の周囲に農業用水路を巡らし、単に「この水路から内側が大井やで」という目印程度のもので、子供のころ鬼ごっこをするときには「水路から外へ出ない」という暗黙の了解がありました。そこを出てしまうことは大井からはみ出てしまうことになるからです（図の点線部分）

前号で言い忘れましたが、大井には質屋さんが1軒ありました。今は珍しい舟板塀のある永野さん方です。表に『質』の暖簾が掛かっていました。それと提灯屋さんが1軒あり、夏祭りや盆踊り、秋祭りなどお祭りや冠婚葬祭などに使う提灯を造っていました。

河内国志紀郡大井村領分絵図



安政3年(1856年)7月岡田續家蔵

## 古墳のある風景 13

川上 恵 エッセイスト

## 改札口の向こう

HP 掲載日 2017. 8. 4.

藤井寺市民は古市古墳群の中に住んでいる。

周囲に古墳群があるのではなく、古墳群の中で私達が生活を営んでいるのだ。点在する小山のような、あるいは丘のような深い緑色は、ほぼ古墳だと思って間違いない。大小の古墳の杜の間を川や水路が白く光り、寺院の鶯がそびえる。大空から眺めたら、きっと、おとぎの国のような眺めではあるまいか。

近鉄土師ノ里駅の改札口の真正面に、小さな古墳がうずくまっている。

鍋塚古墳である。古墳の下方を小豆色や朱色の電車が走っている。

「行っていらっしやい！」

「お帰りなさい、お疲れさま」

学生や通勤者、買い物への主婦たちを、駅前の古墳は見送り出迎え続ける。

墳丘を被う芝生の清らかな早緑、古墳を包む燃えるような夕焼け、7メートルばかりの墳頂に登れば、遙か彼方にあべのハルカス……。

だがその佇まいは、押しつけがましくなく、さりげに美しい。それらを当たり前の光景として、私達は享受する。癒されている事にも気づかずに……。



鍋塚古墳

この度「百舌鳥・古市古墳群」は、世界文化遺産登録の国内推薦を受けました。

大型の古墳が多い古市古墳群には、このように小振りでも可憐な古墳も多くあります。

どうぞ古市古墳群へお越しください。改札口の向うで、鍋塚古墳は皆さまをお待ちいたしております。